

## 特別活動 授業デザイン

日 時：平成26年1月31日（金）第4校時（11時35分～12時20分）  
学 年：本校小学部6年  
授 業 場 所：本校小学部3組教室

### 1. 単元（題材）名 健康によい食生活

### 2. 単元（題材）の目標

本学級の児童は、入院生活においては、栄養士により管理された3食の食事および適切な量と内容のおやつを規則正しくとり、望ましい食生活をしている。しかし、外泊で家庭に帰ったときには、朝食をとらなかつたり、ジュースやおやつを好きなだけ飲んだり食べたりするなど、健康を保つために望ましくない食生活をしている児童もいる。

学習指導要領解説特別活動編で示されている、学級活動において取り扱う内容「（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」より、「児童が自分の健康状態について関心をもち、身近な日常生活における健康問題を自ら見付け、自分で判断し、処理できる能力や態度の育成」をねらいとして、児童が健康によい食生活について考え、判断して日常生活で実践しようとする意欲を育てる。

### 3. 単元（題材）の指導計画 指導計画（全1時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第1時	食物のはたらきである黄・赤・緑がそろった食事が健康を保つために大切であることを理解し食事メニューを考える。 小学生にとって適切な砂糖の摂取量を知り、砂糖のとりすぎが体に及ぼす影響について理解する。清涼飲料水やお菓子に含まれる砂糖の量を調べる。	IWB, 教材提示装置

### 4. 本時の目標

- （1）食物のはたらきである黄・赤・緑がそろった食事が望ましいことを理解し、健康によい食事について考えることができる。
- （2）糖分のとりすぎが体に及ぼす影響について理解し、望ましいおやつのとりに方について考えることができる。

### 5. 本時の情報通信技術（ICT）活用

活用する場面	・展開
活用する者〔目的〕	・児童〔協働学習〕・指導者〔資料提示〕
活用するコンテンツ	・自作コンテンツ
活用する機器	・IWB・教材提示装置

6. 本時の展開

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】
導 入	<p>一斉学習</p> <p>① 食物のはたらきである黄・赤・緑について確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の保健指導「朝ごはん」の学習内容を復習する。</li> </ul>
展 開	<p>一斉学習</p> <p>② 黄・赤・緑がそろった食事が望ましいことを理解する。</p> <p>個別学習→協働学習</p> <p>③ 3色そろっていない食事のメニューに何を加えるとよいか、偏った食事のメニューをどのように改善すればよいかを考える。(個別・グループ)</p> <p>④ グループで考えたものを発表する。</p> <p>⑤</p> <p>一斉学習</p> <p>⑤ 適切な砂糖の摂取量を知り、砂糖のとりすぎが体に及ぼす影響について理解する。</p> <p>個別学習→協働学習</p> <p>⑥ よく食べるお菓子やジュースに含まれる砂糖の量を計算する。</p> <p>⑦ 自分のグループが調べた砂糖の量を発表する。</p>	<p>IWB (指導者)</p> <p>IWB (指導者) 教材提示装置 (児童)</p> <p>IWB (指導者)</p> <p>IWB (指導者) 教材提示装置 (児童)</p>	<p>【IWB】 食物のはたらきについて視覚的に理解できるように拡大提示する。</p> <p>【IWB・教材提示装置】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3色そろっていない食事メニューおよび参考となる食品イラストを提示する。</li> <li>偏った食事のメニューをT2が提示する。この提示に対して児童がアドバイスをする形態で進める。</li> <li>教材提示装置で提示しながら発表できるようにする。</li> </ul> <p>【IWB】 適切な砂糖の量および砂糖のとりすぎが体に及ぼす影響について視覚的に理解できるように拡大提示する。</p> <p>【IWB】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品表示から砂糖の量を出す計算方法を提示する。</li> <li>計算が難しい児童への個別支援を行う。(T2)</li> <li>教材提示装置で提示しながら発表できるようにする。</li> </ul>
ま と め	<p>個別学習</p> <p>⑧ ふり返しカードにこの時間で学んだことや感想、今後の生活に生かしたいことを記入し、本時の学習をふり返る。</p>		

7. 本時の評価 (評価の観点・観点別の評価を含む)

- (1) 食物のはたらきである黄・赤・緑がそろった食事が望ましいことを理解し、健康によい食事について考えることができる。
- (2) 糖分のとりすぎが体に及ぼす影響について理解し、望ましいおやつのとりに方について考えることができる。

8. 準備物 IWB, 教材提示装置, デジタル資料 (自作コンテンツ)